



お二人は息の合った掛け合いを交え、テンポよくお話をいただきました。
(左から鈴木まゆみ議員、川島議員、坪井れい子さん、近藤道子さん)

小泉八雲の業績を称え広める

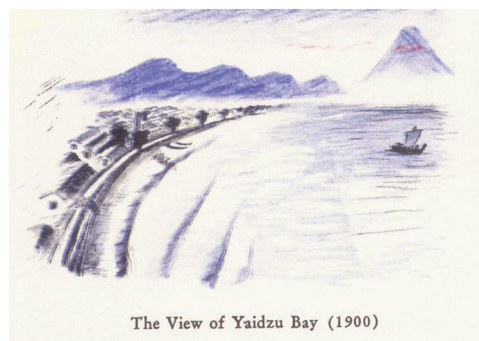
「小泉八雲顕彰会」のみなさんへ

議員が直接話を聞いて市民の本音に迫る「市民インタビュー」。今回は、小泉八雲顕彰会の皆さんにお話を伺いました。

発足の経緯は？

当会の前身はス波敦氏と鈴木賢氏を中心に昭和14年に設立された「八雲会」です。「焼津に八雲がいたことを残したい」という強い思いのもと資料を集め、昭和25年に「八雲文庫」を設立したのを機に解散しました。しかし、昭和41年、八雲が滞在拠点とした山口乙吉の家、通称「八雲滞在の家」の所有者より移転希望があったことを受け、「八雲ゆかりの家を残したい」と多方面から多くのメンバーが集まり再発足しました。行政も思いを同じくしていましたが、財政難により、やむなく家屋は明治村（愛知県犬山市）に移転すること

となりました。跡地には当会が記念碑を建て、記憶を留めています。私たちが子どもの頃は、「八雲」という言葉を、町の中で良く耳にしました。昭和25年に行われた「小泉八雲生誕百年祭」も大変盛大であったようです。八雲を唄った「焼津おどり」「八雲小唄」もこの時生まれました。小泉八雲は当時から、市民に大変愛され親しまれていたんです。



八雲が描いた浜通りの海岸
（「Re-Echo」より）

八雲が遺した足跡をたどって

昭和25年にできた「八雲文庫」は、当時、現本庁舎向かいあたりの、町立図書館の横にありました。今は平成19年に開館した「焼津小泉八雲記念館」にて、書籍のほか小泉家・山口家から寄贈された遺品類も合わせて展示・保管しています。

記念館の開館当時は、新聞やテレビなどで大変注目を集め、ゆかりの地である熊本や松江でも大きく取り上げられました。

記念館は文化教育施設であり、入館料は頂かないという方針で開館に至っています。これは、市民はじめ八雲を想う方が気軽に何度でも訪れることができるようにとの思いからです。

話を聞くだけでなく、「自分で見



講演会活動や会誌「八雲」の発行などを行っています。

て体験する」ということに大きな価値があります。ここを訪れた人が、何かのきっかけでふと思い出してくれる。それがいいですね。



「焼津小泉八雲記念館」内
小泉八雲顕彰会コーナー

これまでの活動と今後への期待

当会では、小泉八雲を通じて、八雲ゆかりの全国各地の方とつながって活動しています。催しがあればお互いに行き来しますし、私自身は八雲の故郷であるギリシャやアイルランドにも訪問しました。アイルランドの海は当時の焼津の海を彷彿とさせる風景で、八雲の思いが偲ばれます。大変素晴らしいところですよ。

さらに、地域との関わりとして、市内にある静岡福祉大学と交流しています。昨年は、附属図書館様

のご尽力のもと、待望の「小泉八雲文庫」が誕生しました(表紙写真)。進藤さんとは10年以上前からお付き合ひさせていただいており、感慨深い思いでいます。

今年で第36回を迎える焼津市主催の「小泉八雲顕彰文芸作品コンクール」では、市内の小中学生から毎年応募があります。八雲の作品は年齢によっては難しいものもありますが、学校の先生の読み聞かせで八雲を知り、応募してくれた小学生もいたと聞いています。焼津で育つ子どもたちが八雲に親しみ、たくさんのお応募を寄せてくれることを今後も期待しています。その他にも、「八雲ゆかりの地」の案内板を焼津市と協力して設置し、歴史を継承しています。



八雲没後120年の催しの様子
(講師 小泉凡氏)

「顕彰」というと堅苦しいですが、大切なのは気持ちです。「小泉八雲が焼津で毎夏を過ごしていたことを伝えたい」という思いを、次の世代でも、楽しく、引き継いでもらえたらと思います。

連続テレビ小説「ばけげ」放送

昨年の記念館の来館者は大変多かったですし、当会への取材もたくさんありました。でも、私たちの活動はいつも通りです。

制作の方が焼津を訪れた際は、市の方々と一緒に案内し、実際にまちを歩いていただきました。ドラマなので脚色もありますが、これを機にお越しいただいた方に「なぜ焼津に記念館があるのか」を知っていただくことに意味があると考えています。

それだけでなく、焼津を訪れ私たちと交流した方々は、ここどこかあると思いついて連絡をくれます。地震や台風ときは「大丈夫ですか?」と声を掛け合い、東日本大震災の時は、「みちのく八雲会」、熊本地震の時は「熊本八雲会」と連絡を取りながら支援させ

ていただきました。そういった人々とのつながりは何にも代えがたいものです。

焼津市への思い

今一番気にかかっているのは、「八雲滞在の家」のことです。今浜通りにある家は当時のものではないので、当時の家を再現したり、記念碑のある公園にしたり…小泉八雲の思い出の場所として後世に残ると嬉しいなと思っています。



八雲滞在の家(明治村移築前)

インタビューに

答えてくれた皆さん

小泉八雲顕彰会

副会長 坪井 せい子さん
理事 近藤 道子さん